

## 美術実技講座「わたしの・ぼくの家を旗をつくらう！」を開催しました。

日 時：平成31年3月16日（土）午前10時～12時、午後2時～4時

講 師：富永敏博さん（現代美術家）

対 象：小学生以上の親子、一般

参加人数：午前16名（子ども9名、保護者7名）

午後15名（子ども8名、保護者6名、一般1名）

参加費：400円（材料費）

職 員：野田、名和、大村

アーティストの造形表現や制作活動について、実際に手を動かしながら参加者に体験してもらうことを目的として、年に一度開催している美術実技講座。今回は、繊維のまち一宮市にちなんで、布を題材として作品やワークショップを展開している現代美術家、富永敏博さんを講師にお招きし、自分の家を象徴する旗の制作に挑戦しました。

まずは、自己紹介を兼ねて、富永さんのこれまでの制作活動をスライドで見せていただきました。ふだんあまりなじみのないアーティストという存在ですが、カキ氷や宇宙人など子どもたちにも親しみやすいモチーフを媒介とし、観客とのコミュニケーションを促す仕掛けのある富永さんの作品に、参加者から笑い声がこぼれます。





その次に富永さんが次々と貼っていたのは、世界中の国旗やチームフラッグの数々。もちろん、一宮市の旗もあります。シンプルな色を組み合わせた旗、名物を描いた旗、紋章や伝統模様を入れた旗など、30以上の旗の説明を聞きながら、自分の家の旗のデザインを考える上での参考にしました。

お話のあとは早速、旗作りに入ります。下描きを丹念に描いて型紙にする子、布から発想を得ようと下地を選び始める子などさまざま。富永さんは参加者の「こうしたい！」という思いを実現するためのアドバイスを丁寧にしてまわります。

ふだん絵を描くのは紙と鉛筆ですが、今日は布とハサミを使って絵を描いていきます。布を切るのは小さな子には少し難しそうでしたが、手を切らないように気をつけながら、時には大胆にハサミを入れて、味わい深い形が出来上がっていきました。





今回の旗のテーマは「わたしの・ぼくの家旗」。途中、家族で「この布はお母さんぽい柄だね」、「名字の漢字に〇〇が入っているから…」、「うちのペットを入りたい！」など、親子で「家」、「家族」について話し合う場面が多くみられました。制作をする中で、日常ではなかなか話し合うことの少ない「家族」というテーマについて、自然と語り合える場が生まれていました。



最後に、旗をもって班ごとに前へ出て発表しました。「本が好きなので、本をデザインしました」、「家族全員を模様の違う円で表現しました」、「ペットが家族にとって大事なので描きました」など、聞いて納得の意味が込められた、思い思いの旗が出来上がりました。同じ「家」を表現していても、親子で異なっている点もユニークでした。



今回の美術実技講座では、国内外でのワークショップの経験が豊富な講師に依頼し、自由な雰囲気の中、大人も子どもものびのびと制作することができました。アーティストの仕事にふれる機会として、また造形表現をする機会として、今後も継続して行ってきたいと思います。（学芸員 野田）

